

雜誌と新聞

▲婦人の誤解 萬朝報

女尊男卑の風の如き泰西諸國に在りては一般に行はるゝと論なしと雖も、家庭に於ては男子が主裁者たること諸國を通じて然らざるなく、女尊男卑の風に社交上に於て行はるゝに過ぎざるなり、自由結婚の如きも名は自由結婚なれども父母の承諾を得ざるべからざることは何處に於ても同じく不義なる結婚に對しては社會上の制裁を有するを以て、結婚に關しては寧ろ我が邦の方自由に過ぐるやの感あり、又た泰西諸國に在りては丁年未滿の女子の獨行を禁じ、父母の同行するに非ざれば外出を許さざる等我が邦に比しては監督一層嚴重なるものあり、又た西洋婦人は一般に社交的なりと信ずるものもある、社交的なるが爲に身分不相應なる交際を爲すものなく、絶えず客を招きて饗應を爲すが如きは、多く上流社會の人に限らるゝとなり、西洋婦人には獨立して職を求むるもの多く其職業は著し

く増加しつゝある如くに考ふるものあり、是れ事實なりと雖も、今英國の統計に就きて婦人の職業別を見るに、最も多きは婦人の縫結にして次は裁縫師なり、是れと我邦同一なる現象なるに非ずや、西洋婦人は政治運動に干與し、女權の擴張に於て男子に譲らざる如くに思惟するものあり、是亦皮相の見にして政治運動に干與する婦人は泰西諸國に在ても僅に指を屈するに過ぎ、英國に於ては議會内に櫛を設けて此櫛内に在ての外婦人の傍聴を許さざる程にして、曩に同國の選舉運動に二三の婦人が夫の爲に奔走したるもありとて佛國の新聞之を佛國になきとなりと記せり、泰西諸國の現今婦人々名辭書に就きて見るに婦人の本分を離れて傑出したる人は稀にして、眞妻賢母主義は依然として最も健全なる思想として遵奉せらるゝを知るに足るなり、獨逸はニイチエの感化を受けて婦人は近來頗る粗暴に傾きつゝありと稱せらるゝも、其婦人中殊に男優りなる闊秀文學家クラ、フイービツヒすら『婦人は不完全なる自然の製作物にして男子と結合するに非ざれば完全な

る一体を爲す能はず」と稱し居れり、以て泰西婦人の一斑を知るに足るべし一時の風潮に伴うて善惡の差別なく徒らに泰西熱に浮かざるゝときは、却て我邦特有の美風を損するに至るべし、若し西洋の風に倣はんとせば、漫りに其外觀に眩惑せらるゝもなく仔細に其真相を観察し、最も實質穩健なる風を模すべし輕佻浮薄は決して泰西婦人の長所に非ざるなり

▲舅姑問題と老人問題 「家庭之友」

舅姑と新夫婦との別居同居問題に就ては舅姑と老人とを混同してはならぬ、舅姑と云つても老人ときまつたものでない、少くも其舅姑が一定の職業を持て社會に勤てゐる間は老人扱いにしたくない、まだ勤てゐる舅姑ならば概して別居する方が好い、其故は一の家庭は一の國家であるから二個の同一の權力があつては衝突の起るのは當然である、互に少しづつ譲り合ふといふのも無理な注文である、東洋流の消極的道德で服従を強ひ互に不愉快と不自由を忍んで同居し種々の精神上の罪惡を造り出すよりは寧ろ別居した方は道理

にも適ひ又便利である、併しながら既に活動を止した舅姑ならば新夫婦は進んで同居し愉快に餘生を樂ましめ、間接には其圓熟老成の感化を受けるやうにありたい、老人と子供は家庭を幸福にする最大要素であつて、此舅姑ならば別に衝突を惹起すやうなことは無からうと思はれる

#### ▲天に貸せ

森村市左衛門

人は何でも末永く考へて働くが好い、仕越した仕事は天に預けたと思へ、六圓の給金取が十圓取ほどの仕事をしたら、アあれ丈は人に貸したのではない、天に貸したのだと思へ、十年八年と時日を積んだら主人又は他人に其實價を知られて凡ての人から意外に信用される、即ち利子迄附いて来ることもなる、人は苦まなくして成功せらるゝものでない、仕事に不平を越して辛抱の出来ぬのが第一宜しくない、人は皆な良心を持てゐるなら自分が好い事を仕、好い物を作る時は喜んで迎へ喜んで需める、商賣人として世に立つにはチャンと世界の先き／＼まで見通しがついて居ればこれに越すことはない、掛引は餘り入らぬ、確實に眞理を搜し出

して其れに當て嵌めて行けば好い、マナ若い人は精一杯に働くことだ仕越した事は其時報酬がなくとも夫れは天に貸したのだと思つて辛抱して行くが好い、さう仕て居れば天は人を成功させずに置くと云ふ事はない、西諺に天自ら助くる人を助くと云ふではないか

#### ▲欧米婦人と日本婦人

高木兼寛

●體育上の比較 欧米の婦人と日本の婦人との體育上の比較は到底比べものにならぬ、假に双方を列らべて立たせて見たら日本の婦人は全て小人島の人種を見たやうである、欧米の教育法は先づ體育から始め、既に充分發達したる母は、其身體の保存に就く注意すると同時に、其子弟をして己が發達したる程度より以上にまで引上ぐることを勤めて居る、故に服裝の如きは最も運動に適するやうに作る、本年の米國婦人流行服は袖が肘限りであつて、娘の間は別に飾もなく、只々運動に適するを目的として、起居進退が活潑に出来るやうになつて居る、日本のやうに下駄を履いて轉ぶことに心を掛け、チヨ／＼歩きをするやでは、到底立派な

體格を作ることは出来ない、日本でも近頃は婦人の山に登ることが流行して來たやうであるが、外國婦人の山に登るは中々素晴らしいもので、男女共同して登るのである、自分の實見したのは三人の婦人に一人の監督婦人が添ひ、又三人の男子にも一人の監督者が添ふて、都合男女八人連れの登山であるが、男子の方が力強い丈けに二人分の糧食を貢ふて登り、婦人は男子に劣らぬ程の輕装をして、登ると云ふ風である。

#### ●德育上の比較

欧米の婦人は子供を善く愛するけれども、常に鞭つことを忘れて居らぬ、少しでも軌道を外れた行ひがあれば、嚴格に矯正せしめて少しも容赦なせぬ、故に子供は上長に對して甚だ服從的精神に富んで居る、隨て獨立的生活を營む上に於いても非常な効果を奏するか、日本では父母の心に一定の軌道がないので善惡に對する標準が立たない、且つ子供を保護することに過ぎて自己の病氣の容體さへ醫師に向つて表白することの出来ない娘が多い、欧米では男女共學をさしても少しの過失がないが、これは

一定の軌道を踏んで居るからである。日本では神に頼るとか佛に頼るか、兎に角從來の慣習標準として居るに過ぎないので、甚だ根據の薄い教育をして居ると思ふ、吾輩の考へでは神も佛も要め、教育勸語の主旨を充分に了解して子を育て上げる父母が必要であると思ふ。

●智育上の比較 智識の點は尙一層日本婦人の方が劣つて居ると思はれる、歐米婦人の智識を求める方法は非常なものであつて、現に近頃日本に渡來した一婦人の如きは、四人の子を携へて世界を漫遊し、さうして子供等の智識を啓發せしむることに勉めて居る、此一事を以て見ても、到底日本婦人は智育に於ても歐米婦人には及ばぬと云ふことが解かる、日本で歐米に勝る處は陸海軍の智識のみで、其の他には何一つとして跨るに足るものがない、況んや婦人の智識の如きは最も低くて外國人との實際の道が開けても、外國人と共に遊ぶ仕方さへ知らぬ爲めに、手を携へて相樂むと云ふことは出來ない、音楽も知らねば舞踏も出來ない、話しも出來ねば歩くことさへ充分に出來ない、そ

れで以て強國の仲間入りをしたいと云ふた處で、少しも威張ることは出來ない、故に吾輩は婦人の教育も男子と同等に高等教育を授けて、世界的智識の啓發に勤めることが必要であると考へる。

▲犯罪と婦人の關係 小河滋次郎氏  
〔看護婦第六號〕

犯罪者は女子よりも無論男子の方に多い△日本では男子は十万人に付き犯罪者五百五十六人、女子は僅に九十一人の少數である、即ち男犯罪百に對し女犯罪十五人となる△女犯罪の少數なのは全く社會的關係に因る、日本在來の家族的制裁に因る、女子が外で働くのを制するから犯罪の場合が少い、其證據には女子が段段外に現はれ出した今日は段々女子の犯罪數が増加しつつある△然らば在來の家族的制裁が好いかと云ふにさうでない、女子は從來迫害を加へられた爲に隆に立て男子に犯罪を行はしめた△女子の方が隆に隠れてゐる犯罪が多い△男子の犯罪の徑路には必ず酒と博奕と女との三つが伴ふてゐる、とりわけ女に關係を持て犯罪はないと云つても好い△女子は陰性で男子は陽性であ

る、夫れ故感化するにも男子の方は樂で女子の方は中々困難である△犯罪の直接原因は窮乏困難に因ることが多いが、男子は艱難に處した場合に奮發して善くなるが反對に罪惡を犯すか極端に走るが、女子は艱難の場合に必ず墮落すると決つてゐる其れと云ふのも天然の資本を持つてゐる△女子が墮落して男子を誘惑して墮落させる、其又源は女子を玩弄物視する男子の了簡が惡い△何にせよ女性を高めればならぬ、夫れは教育を高めれば出來ぬ△其證據には男子の犯罪は廿五歳より卅歳迄の間に多い、夫れより以上は受けた教育が活用され思慮分別が出來て事業に就くから段々少くなる△女犯罪は廿歳より卅歳迄に多い、其以上になつても少くはならない四十歳五十歳の間にも却て多くなるのは詰り教育を受ぬから獨立的事業に従事する事の出來ぬ故である